



## 輝いて人生(前)

「老いをどう生きる③」

今の日本は、かつて経「輝いて人生」はまさ  
験したことがない少子高に日野原さんのことであ  
齢化社会。かく言う自り、日野原さんのように  
分も喜寿を超えた。それ 少しでも他者のために生  
でも平均寿命にも達しな 涯を生きる姿にあこがれ  
い。病院に行けば高齢者 の気持ちを持っていた。  
であふれている。老いを 今回改めてその本を読み  
どう生きるかが大きな問 直してみても、単に日野原  
題になっている。 さんの生き方に感動する  
前回、105歳で亡 のではなく、喜寿を過ぎ  
くなられた聖路加国際 た今からでも遅くはな  
病院理事長だった日野原 く、きょう一日を前向き  
重明さんの著書「豊かに に生ければ、自分も輝い  
老いを生きる」について て生涯を過ごせるという  
書いた。 確信のようなものを持つ  
ようになった。

日野原さんは山口県の出 出身。一度、講演前に軽  
食を共にしたことがあ る。確か80歳ごろだった  
と思うが、立ったまま約 1時間半講演され、3  
年先まで講演のスケ ジュールが決まっていると  
聞き、驚いたことを思い 出す。

いつの間にか日野原さ んが書かれた本が20冊近  
くになり、中でも「輝い て人生」という日野原さ  
んと兵庫・生と死を考え る会の会長のシスター高  
木慶子さんとの対談集の 内容に心を引かれた。

自分を振り返ってみる 私はこれを見て あり  
と、もう遅すぎると前 がどうの言葉を捧げて言  
に向かつて生きることか うと 眠るよ 静かに。」  
ら逃げて、まさに「長 プロテスタントの熱心  
生きのための長生き」 な信者であった日野原さ  
をしていることに気づか ん。確かに「輝いて人生」  
される。 だった。

「輝いて人生」も、日 対談相手のカトリック  
野原さんのことではな のシスターもまた、神の  
く、自分がきょうから ために自分の生涯を捧  
前向きに、少しでも他 げ、サン・テグジュペリ  
者に役立つ生活をすれ の名作「星の王子さま」  
ば自分もまだまだ輝いて の「大切なことは目に見  
生けることが出来るの えない」というキツネの  
だ。 言葉を引用しながら、  
若いころの不規則な生 目に見えることばかりに  
活と暴飲暴食のため心 翻弄されている私たち現  
臓、肝臓、腎臓が悪く、 代人の生き方を少しでも  
高血圧と糖尿病などな 改めようと提言される。  
ど、まさに病気のスー 今の日本人の平均寿命  
パーマーケット。しかし や健康寿命は確かに世界  
日野原さんの「病気で のトップクラスではある  
あっても健康でいること が、幸福度はそれに比例  
は出来ませ」という言葉 していない。改めて、大  
は、自分に新しい生きる 切なことは目に見えな  
力を与えてくれる。 い、心の豊かさ。

日野原さんが105 「輝いて人生」は「有  
歳で亡くなる直前に自宅 り難う」と感謝の気持ち  
で書き残した詩。 を持つて前向きに日々を  
「風吹きて 庭のみど 生きる時、誰もがそのよ  
りがささやける。」 うに生きられるのだ。



聖路加国際病院理事長・同名誉院長  
日野原重明

## 輝いて人生

英知大学教授  
「兵庫・生と死を考える会」会長  
高木慶子



学習研究社